

中南米フードバリューチェーン（FVC） 第1回分科会 議事録

1. 日時：2019年4月25日（木）13：40～14：40
2. 会場：JICA 研究所セミナールーム 600
3. 参加者：70名（TV会議による出席者8名含む）
4. TV会議接続：JICA 帯広、関西、九州

=====
【概要】

- JICA 中南米部吉田部長より、中南米地域の食農分野への協力の意義、これまでの日伯協力、本分科会のネットワークの活用について述べられた。
- 農林水産省・国際交渉官・植杉氏から、GFVC（グローバルフードバリューチェーン）の強化に向けた産官学の連携の意義が述べられた。
- 農村開発部第3チーム伊藤課長より、本分科会の趣旨、活動計画案の説明、2019年3月から開始した「中南米地域広域・フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用のための情報収集・確認調査」に関する進捗状況の報告をした。本調査の第1次国内調査の結果、調査対象国として選定された5ヶ国（パラグアイ、ペルー、エクアドル、グアテマラ、コスタリカ）の説明とともに、現時点で想定される現地のFVCの品目候補と活用が期待される日本の技術・ニーズについて紹介した。
- JICA 中南米部柏木職員より、ブラジルのスマート農業に関する現地調査結果を報告した。広大な土地で農業を行うブラジルではスマート農業の適用が進んでいること、気象や土壌データの整備などに技術的なニーズがあることが共有され、今後 JiPFA を活用し、日本企業と現地のマッチングを促進したいことが伝えられた。

【質疑応答】

- Q1. 各国の優良 FVC 品目が選定されているが、その選定基準は何か。
例えばペルーでは、ぶどう、マンゴーとあるが、点数付けなどを行っているのか。
- A1. 国内調査の結果、その国でインパクトが大きい品目と日本企業の関心及び活用が想定される技術のマッチングにより FVC 候補を選定した。
国内調査では、FVC 75 点の品目のロングリストを作成して対象候補を挙げ、以下の3点について調査し、その中から FVC 候補を選定した。
- ① 輸出振興をしている農産品
 - ② 企業の関心がある品目（本邦企業 40 社へのインタビュー結果）
 - ③ 現地のパートナーから見た受け入れ体制

現時点で挙げられているのは、想定される FVC の品目候補であり、5 月から始まる現地調査で、一つ一つの FVC の状況について確認していく。

Q2. 日本食材はどのように扱っているのか。FVC の品目に日本食材を選定することで、日本企業が進出しやすく、現地関係者にも日本に関心をもってもらえるのではないか

A2. 日本食材に力点を置いているわけではない。FVC は、第 3 国を含めた輸出振興として見ており、第 3 国への輸出も考慮している。

サンパウロなどの日本食市場にもっていけるインパクトがあれば、調査の対象として選ばれていく可能性はある。

Q3. JICA の課題別研修では、JICA 筑波の有機農業が有名であるが、産学官の連携で考えていることあれば教えてほしい。

A3. 本調査は、現地調査後、招へい事業を実施する計画であり、課題別研修との連携も想定している。例えば、スマート農業関連の技術を日本で学ぶ研修が考えられている。

以上